

本部だより

●第 33 号



マーシャル方面遺族会

<http://mibfa1926.com>



携帯サイト

●環礁・本部だより第33号 ●発行日：平成28年2月1日 ●発行人：井上賀雄
●マーシャル方面遺族会本部：〒180-0013 東京都武蔵野市西久保2-21-11
●電話 & FAX：0422-56-1847 ●振替番号 00160-3-567561



南洋の朝日

謹賀新年

平成28年
本部役員及び篤志会員

篤志会員	監事	幹事	幹事	幹事	幹事	幹事	幹事	幹事	幹事	幹事	常任幹事	常任幹事	副会長	副会長	副会長	会長	相談役	
徳原徳子	内海淑子	吉田正明	宮城 勇	星野綾子	中村順子	清水雅尚	佐藤知子	小室洋子	葛西 勉	岡村勝利	石澤洋子	鈴木千春	川端堅太郎	米林義昭	山口良二	高林芳夫	井上賀雄	大給湛子

平成 28 年度 慰霊祭、総会、直会のご案内

会長 井上賀雄

会員、会友の皆様には、お健やかに新年をお迎えのこととお慶び申し上げます。

本年の慰霊祭を次の通り開催致します。

■慰霊祭

日時 平成 28 年 4 月 3 日 (日)

受付 靖国神社参集殿前

午前 9 時より受付開始。

受付を済ませた方は、参集殿

2 階「楠の間」にてお待ち下さい。

慰霊祭 午前 10 時よりご本殿にて

■総会

慰霊祭終了後、総会がございます、詳細は当日ご案内いたします。

■集合写真

お天気が良ければ、靖国会館前にて集合写真を撮ります。

■直会 (なおりい)

今年の直会は、新しく一泊二日の温泉旅行を企画いたしました。

12 時半頃、靖国神社から観光バスに乗り、修善寺温泉 (静岡県) に出発します。詳細は別紙ご参照下さい。

・旅行代金・2 万 5 千円

(バスでの昼食代、保険料含む)

翌日、朝、現地を出発し、午後 3 時 40 分頃、東京駅に到着予定。東京駅で解散となります。

会員親睦のため振るってご参加下さい。

(直会旅行に不参加の方は、靖国神社で解散となります。)

●お願い

①慰霊祭 出欠はがき

同封の出欠はがきには、欠席の方も各項目にご記入の上、2 月末日までに本部に届くようご投函下さい。

②お振り込み

・年会費 3 000 円

・玉串料 一名 5 00 円

(慰霊祭参加者のみ)

・寄付金 任意 (ご協力よろしく願います)

・直会旅行代 (ご希望者のみ) 一名 2 万 5 千円

同封の郵便振替用紙で 2 月末日までにお振込み下さい。

③「会員登録」はがき

8 月の「本部だより」に同封いたしました「会員登録」はがきを未提出の方は、大至急ご記入の上、ご返送ください。

会員名簿作成に必要ですので、ご協力をお願いいたします。





靖國神社「みたままつり」

平成27年度
マーシヤル方面遺族会
永代神楽祭斎行

高林芳夫

平成27年7月15日、靖國神社において
本会の永代神楽祭が斎行されました。
神官の祝詞奏上のおち、笛、太鼓の演
奏にあわせての巫女の舞は見事なもので
した。当日はみたままつりの最中で神社
境内は大勢の参拝客で大賑わいでした。



当会の提灯

夜には提灯に灯が入り、幻想的な世界
が広がりました。

今年の参加者は次の方々です。

- 東京都 星野綾子 内海淑子
- 岐阜県 米林義昭 米林美智子
- 岐阜県 吉田正明
- 千葉県 菅生 勉 菅生順子
- 埼玉県 小室洋子 佐藤知子
- 高林芳夫
- 栃木県 岡村勝利

計11名

今年の永代神楽祭も7月15日に執り行
います。皆様のご出席をお待ち申し上げ
ます。

平成27年
全国戦没者追悼式

高林芳夫

終戦後70年目を迎えた平成27年8月15
日、政府主催の全国戦没者追悼式が、東
京九段の日本武道館で執り行われまし
た。

天皇皇后両陛下の御臨席のもと、安倍
晋三首相や政府関係者、各界代表、各都
道府県からの遺族代表等約6千名が参
列、広い会場も一杯でした。

一同国歌斉唱、安倍内閣総理大臣の式
辞、正午の時報を合図に黙禱が捧げられ
ました。

その後、天皇陛下がお言葉を述べられ
ました。天皇皇后両陛下のご退席後、来
賓の追悼の辞、遺族代表の追悼の辞があ
り、内閣総理大臣各国大使、各界代表、
遺族代表と献花が続ぎ、最後に塩崎厚生
労働大臣が献花され追悼式が無事終了と

なりました。

追悼式参列者

米林義昭 米林美智子 星野綾子

内海淑子 高林芳夫

天皇陛下のお言葉

「戦没者を追悼し平和を祈念する日」に当たり、全国戦没者追悼式に臨み、さきの大戦において、かけがえのない命を失った数多くの人々とその遺族を思い、深い悲しみを新たにいたします。

終戦以来、既に70年、戦争による荒廃からの復興、発展に向け払われた国民のたゆみない努力と、平和の存続を切望する国民の意識に支えられ、我が国は今日の平和と繁栄を築いてきました。戦後という、この長い期間における国民の尊い歩みに思いを致すとき、感慨は誠に尽きることはありません。

ここに過去を顧み、さきの大戦に対する深い反省と共に、今後、戦争

の惨禍が再び繰り返されぬことを切に願ひ、全国国民と共に、戦陣に散り戦禍に倒れた人々に対し、心からなる追悼の意を表し、世界の平和と我が国の一層の発展を祈ります。



全国戦没者追悼式



現地慰霊中止のお知らせ

当初1月に予定しておりました当会主催の「現地慰霊」は、最終的に参加希望者が5名と、人数が少ないため、残念ですが中止とさせていただきます。

遺児の方については、急きよ日本遺族会主催の現地慰霊に申し込みをして頂きました。

平成27年の改正法による「戦没者等の遺族に対する特別弔慰金」の支給について

一、特別弔慰金の趣旨

戦後70周年に当たり、今日の我が国の平和と繁栄の礎となった戦没者等の尊い犠牲に思いをいたし、国として改めて弔意の意を表すため、戦没者等のご遺族に対する特別弔慰金（記名国債）を支給するものです。

第10回特別弔慰金については、ご遺族に一層の弔意の意を表すため、償還額を年5万円に増額するとともに、5年ごと

に国債を交付することとしています。

二、支給対象者

平成27年4月1日（基準日）において、「恩給法による公務扶助料」や「戦傷病者戦没者遺族等援護法による遺族年金」等を受ける方、「戦没者等の妻や父母等」がいない場合に、次の順番による先順位のご遺族一人に支給。
戦没者等の死亡当時のご遺族で

①平成27年4月1日までに戦傷病者戦没者遺族等援護法による弔慰金の受給権を取得した方

②戦没者の子

③戦没者等の

① 父母

② 孫

③ 祖父母

④ 兄弟姉妹

戦没者等の死亡当時、生計関係を有していること等の要件を満たしているかどうかにより、順番が入れ替わります。

三、支給内容

額面25万円。5年償還の記名国債

四、請求期間

平成27年4月1日から平成30年4月1日まで
〔請求期間を過ぎると第10回特別弔慰金を受け取る事ができなくなりますので、ご注意ください〕

五、請求窓口

お住まいの市区町村の援護担当課へ

六、請求に必要な主な書類等

市区町村の窓口でご確認下さい

平成25年の改正法による「戦没者等の妻に対する特別給付金」の支給について

(一) 支給内容 額面200万円、

10年償還の記名国債

(二) 請求期間 平成25年6月12日から

平成28年6月13日まで

(三) 請求窓口 お住まいの市区町村の援護担当課へ問合せください。

*請求期間を過ぎますと、給付金を受けることが出来なくなります。

詳しくは各市区町村の窓口でご確認下さい。



ウオッセ島のプロペラ

寄付者御芳名

前号で、記載不備がありました。心よりお詫び申し上げます。

岩手県 小山浩二様

宮城県 安藤としえ様

鹿児島県 下吉 勲様

ご寄付ありがとうございました

訃報

鬼海サツキ様

毛塚道弘様

藤田正勝様

山口裕子様

謹んでご冥福をお祈りいたします。



平成26年度政府派遣
マーシャル諸島慰霊巡拝報告
(後半)
清水雅尚

先号ではクエゼリンでの追悼式まで報告いたしました。

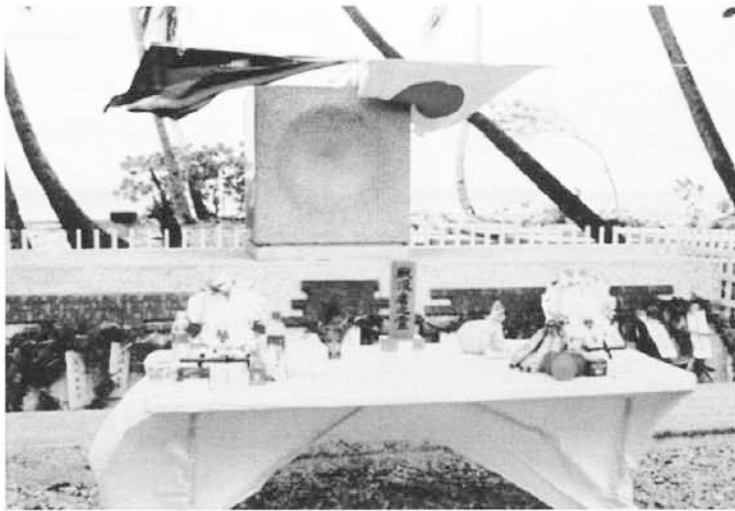
当日3月11日夕刻、クエゼリン発マーシャル諸島の首都マジュロに8時過ぎに到着。首都といっても人口は2万4千人(ちなみに国の人口は1千以上の島に6万人弱)。マジュロ島は細長く延びたサンゴ礁の最大の島で長さが数十kmですが、島幅は長くて数百米もありません。そこに政府庁舎をはじめ簡単な首都機能が置かれていますから当然その他は限界があります。ホテルは一流ホテルもあつたようでしたが我々が宿泊したホテルはあまり芳しくなく、清潔だったのが唯一取柄のホテルでした。

翌日、別動の2班の人達と総数16名で午前中はジャボール(ヤルト)島、午後はウォッゼ島に慰霊に行きました。両島共米軍の上陸作戦はなかったものの、空襲、艦砲射撃で多くの施設が破壊され多くの人が戦死しています。

帰国後に分かったことですが、当初米軍の目標はウォッゼだったのですが対空砲台と海岸線に堅固な戦車用防壁を張りめぐらせていたため、ウォッゼをあきらめクエゼリン島に変えたとのことで運命のいたずらを思い知らされました。しかし両島共その後は終戦まで島の雑草、ネズミまで食べ尽くし、デング熱、アメーバ赤痢に苦しみ、餓死者続出の地獄を味わいました。



飛行場に集まる子供たち



東太平洋戦没者の碑

ジャボール島での追悼式は学校の敷地の大きな木のかたわらで行われ、大勢の生徒たちが興味深く眺めていました。何しろ人口の半分が15歳以下という国。ウォッセ島でも草ぼうぼうの空港に到着するとすぐに子供達がわっと現れ、我々に群がってきました。

追悼式は海岸寄りの木陰で執り行われましたが、多くの子供達が「何をやるのだろう」と我々をとりまきました。裸足

の子供も多く、事前に知っていたら、日本からお菓子をたくさん持って来ればよかったと思ひ、戦後進駐軍が我々にばらまいたガム、キャンデーを思い出しました。

翌日はマジュロ平和公園にある「東太平洋戦没者の碑」の前で合同追悼式が強風の中、大使夫妻その他関係者出席のもとで行われました。ここはパラオにある「西太平洋戦没者の碑」と対になるもので昨春、両陛下が慰霊に訪れたのはパラオの方です。

マジュロにはココヤシの加工工場があり見学、ココナッツオイルを土産に購入しました。広大な海域をかかえているだけに魚はスーパーに豊富でしたが、漁獲するのは入漁料を払った外国船籍(台湾・中国など)の船で、ほとんどが日本などに輸出されます。

翌14日マジュロを出発しグアムに向かいましたが飛行機が遅れ、夜間チューク島(トラック島)でオーバータイム(残業拒否で)設備の悪い狭く汚い空港の固い椅子の上で一晩を過ごすはめになりました。荒天続きで見る事の出来なかった

南十字星を見られた人もいたようです。その夜、空港近くのレストランで食べた海老フライが旅行中で一番うまかったという皮肉もありました。翌朝グアムの空港に寄っただけで日本へ帰国しました。

おわり

*「連載③ウォッセ島」の続きは次号に掲載いたします。

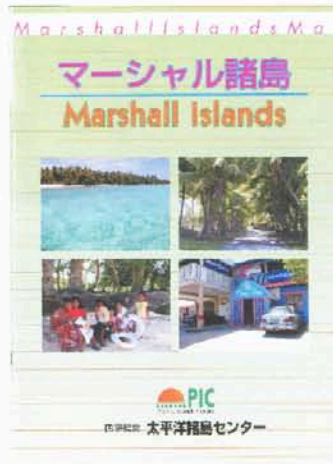


ウォッセ島司令部、現在は民家

編集部からのお知らせ

今年度は残念ながら「現地慰霊」が中止となりました。「個人的にマーシャル諸島に行ってみよう」という方向への参考資料をご紹介します。

← 太平洋諸島センター発行の冊子 (A5サイズ40ページ)



マーシャル諸島の概要、旅行者へのアドバイス、首都マジュロの案内、観光スポットなどが記載されています。2011年に発行。情報はその時点での情報です。

*ご希望の方は「マーシャル冊子希望、郵便番号、住所、氏名、電話番号」を記載したメモと、送料分の140円切手

を同封して左記に送ってください。

〒101-0052

東京都千代田区神田小川町

3・22・14

明治大学 紫紺館1階

太平洋諸島センター宛

電話 03・5259・8419

*太平洋諸島センター (Pacific Islands Centre, PIC) は、1996年に日本政府と太平洋地域の国際機関である南太平洋フォーラム (現 太平洋諸島フォーラム: PIF) とにより設立された国際機関です。詳しくはHPをご覧ください。

書籍紹介

「マーシャル諸島の政治史」

黒崎岳大著

明石書房 5800円 (税別)

1986年に独立したマーシャル諸島共和国。その伝統的価値観と政治的リーダーであるエリート層の動向に着目し、独立までの経緯と近現代政治史をまとめ

マーシャル諸島の政治史

黒崎岳大



ています。著者の豊富なフィールド調査をもとに、現代の国際社会の中で懸命に生きている小国の姿が見えてきます。

本書の第9章には、慰霊巡拝と遺骨収容における遺族会、また現地日系人会との関わりなども記載されており、当会と深いご縁のあった故・山村要さんのコメントも紹介されています。(文中ではイニシャル表記となっております)

● 著者略歴

黒崎岳大

国際機関太平洋諸島センター次長。早稲田大学大学院博士後期課程満期退学。博士(文学)。早稲田大学文学部助手、在マーシャル日本国大使館専門調査員、外務省アジア大洋州局外務事務官等を歴任後、2010年より現職。専門は太平洋島嶼国の政治経済学、文化人類学(国家政策・開発経済)